

コロナ対策下での避難

【避難所において町ができること】

避難所開設にあたっては、受付時の検温、消毒液の設置や避難者間の距離が適切にとれるよう配慮し開設します。発熱など風邪の症状がある場合には、別室を確保するなど、できるだけ他の避難者との接触を避けるよう配慮します。

【町民の皆様をお願いしたいこと】

平時からの災害への備えを心がけるとともに、当分の間は、新型コロナウイルス感染症対策下での避難であることを認識し、災害への備えをお願いします。

- 1 避難所以外の安全な場所（例えば親戚や知人宅など）が確保できる方は、前もって避難場所を確保し、そこを避難場所とすること。
- 2 夜間や風雨が強い場合など、屋外へ出ることにより、かえって命に危険がおよぶことがあるので、安全を確保しつつ、在宅避難（家に留まる）すること。

*危険が迫っているような場合は、
役場（68 - 2211）又は119番に連絡

- (1) 在宅避難の場合で、土砂災害警戒区域又はその付近の方は、自宅に接する斜面と反対側の部屋（2階がある場合は2階）に避難すること。
- (2) 在宅避難の場合で、浸水想定区域の方は、2階に避難するなど、高い場所に避難すること。

自分自身の判断で身を守ることが重要

台風のように進路がある程度予測できるものについては、早い段階で「避難準備・高齢者等避難開始」を発令することができます。

しかしながら、「線状降水帯」が及ぼす災害の場合には、「避難勧告」や「避難指示」を発令しても、発令から避難に至る時間的余裕がなかったり、既に、風雨が強かったり、冠水が始まるなど、避難が困難な状況になる場合があります。さらに、これが夜間の場合には、更なる危険を伴うこととなります。

このような場合は、たとえ「避難勧告」や「避難指示」が出たとしても、左の「コロナ対策下での避難」に記載のような方法も身を守る行動になりますので、コロナ対策下でなくても、いざという時に、自分自身の身を守る行動のひとつとして知っておいてください。

コロナ対策下での避難場所の選択肢

<p>学校や文化センターなど町指定の避難所</p> 	<p>親戚や知人宅など避難所以外の安全な場所</p> 	<p>在宅避難（1階から2階への垂直避難）</p> 
---	---	--

コロナ感染対策を取り入れた職員防災訓練を実施



職員防災訓練。災害対策本部会議の様子

7月22日（水）毎年実施している職員の初動訓練に加え、今回は、新型コロナウイルスの感染対策を講じた避難所運営に重点を置き訓練を実施しました。

訓練は、台風災害を想定し、午前9時に開始され、台風接近に伴う災害警戒本部の設置とともに、「避難準備・高齢者等避難開始」情報の発令及び避難所の設置を開始。その後、災害対策本部への移行とともに「避難勧告」の発令という想定で行われました。

避難所設置訓練の会場となった利根町文化センターでは、コロナ対策を講じた受付の設置と間隔をあげた避難スペースに間仕切り設置の訓練を行いました。

また、今後の地区の避難対策をはじめ、地域防災力の向上の一助となるよう、各地区の区長及び利根町防災士連絡会の方々、町議会議員の方々にも視察していただき、設置完了後は、視察された方々が避難者に扮し、受付から避難スペースへの誘導を体験しました。



職員の間仕切り設置訓練の様子



受付訓練。体温測定及び受付の様子



本部の状況を利根町文化センターでライブ中継。

特集

突然の災害から身を守るために

日本では、毎年のように大規模な災害が発生しています。いざというときの災害に備えておくことが大切です。今回は、「利根町における身の守り方」や先日実施した、「コロナ感染対策を取り入れた職員防災訓練」などについてご紹介します。この機会に防災対策を生活の中に取り入れましょう！



気象庁からの気象情報に注意する

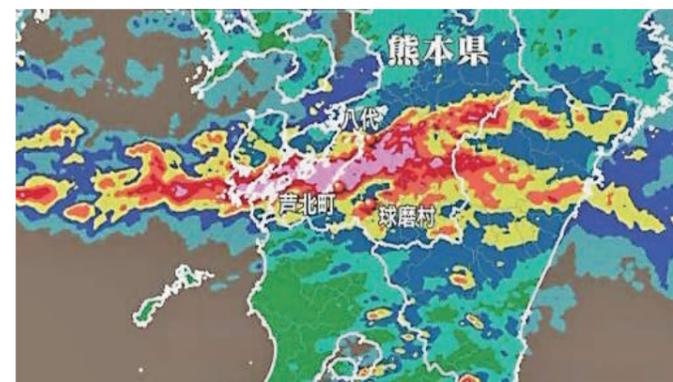
気象庁では、現在の天気予報のほか、雨雲の動きを示した今後の予測も発表しています。これらの気象予測は、テレビやインターネット上のウェブサイトでも見ることができます。また、「NHKニュース防災」や「Yahoo!防災速報」など、防災情報の通知機能を有したアプリも無料でダウンロードできるので、これらを取得しておくことで、より幅の広い情報が取得できます。【下段へ続く】

利根町における身の守り方

最近の大雨による災害は、台風に限らず、気象条件によって「線状降水帯」が発生し、一定の地域に猛烈な雨が長時間降り続けることによる災害が多くみられます。

今年7月に九州や中部地方を襲った豪雨災害もそのひとつで、熊本県の球磨川の氾濫においては、1時間に100ミリという予想を上回る猛烈な雨が降り続いたことから、地形の影響もあり「大雨特別警報」発令から約1時間で球磨川が氾濫しました。この災害では、時間帯が夜間であったことも災いし、避難が間に合わない方も多くいました。

気象庁によれば、猛烈な雨が集中的に降る「線状降水帯」による被害を予測することは非常に難しいとのこと。



熊本の線状降水帯の画像（出典：NHK）

令和2年7月豪雨災害を知る

町からの情報取得方法を知る

町では、気象庁から大雨警報などが発令され、避難が必要と判断した場合には、できるだけ昼間の間に避難ができるよう「避難準備・高齢者等避難開始」を情報メール一斉配信サービス（要登録）により災害情報を発信するほか、エリアメール、防災行政無線、町公式ホームページなどのあらゆる手段を使い避難を呼びかけます。状況が悪化すれば、その危険度に応じ「避難勧告」「避難指示」に切り替えて避難を呼びかけることとなります。

線状降水帯の予測は困難

しかしながら、局地的に猛烈な雨をもたらす「線状降水帯」の発生は、その予測が難しく、気象庁の「大雨特別警報」の発令も、かなり押し迫った状況になってから発令される場合が多くなります。

このため、町からの「避難勧告」や「避難指示」の発令も、避難に十分な時間的余裕があるとは限りなくなりません。【次頁へ続く】



防災情報アプリ画像（出典：Yahoo! JAPAN）

情報メール一斉配信サービスの登録方法については、4ページに記載しています。ご確認していただき、ぜひ、登録をお願いします。